

# なごみだより

平成21年10月11日発行 第8号  
犯罪被害者自助グループ「なごみ」の会

問い合わせ先 鳥取県庁くらしの安心推進課  
TEL 0857-26-7183

## 全国被害者支援ネットワークに参加 して思うこと

特に天候の定まらない困った夏も、そして秋の彼岸さえ終わりました。私達なごみの会会員は夏の盆の行事や彼岸の墓参りなど、他の人には想像がつかない位のつらい想いと向き合いながら、それらの時期を迎えます。その後には、大きな虚脱感と病院にすぐにも駆け込まなければいけない程の疲労感が残ってしまいます。

さて、10月2～3日に東京で開催された、全国被害者支援ネットワークの研修会に犯罪被害者自助グループの立場で参加してきました。全国の犯罪被害者を支援する方々が一堂に集まり、講演や事例発表などを聞き、被害者支援に対する思いを新たに致しました。全国規模だから早くから立ち上げて活動している県、我が県はやっと昨年体制を整えたところですが。整えた以上は遅れている部分は先進地に学び、被害者支援を充実させて欲しいものです。我々犯罪被害者は、長い間何もされずに放置され、基本的人権を行使するには程遠い生活をしいられてきたのです。

犯罪被害者は年々増加してきています。しかも、被害の内容は残忍かつ悪質になってきています。そのような中、当県ではまだ支援センターがなかった時代から、その犠牲者は世間の目にさらされ、裁判では加害者のあまりに軽い刑、そして、被害者遺族の事を気にもかけない行政、事故や事件の後には手をさしのべて来ない警察、興味本位のマスコミの取材と報告、どれをとっても、我々には役に立つどころか奈落の底につき落とすようなことばかり・・・！！。

そのような時間の中をくぐってきた遺族は精神を病み、肉体をむしばまれ、まとまるはずの家族の中にも温度差が生じて、家族崩壊など例をあげればきりがありません。こんな事をいつまでもやっている県は、人権意識の低い県として全国からは馬鹿にされていくでしょう。早い時期に犯罪被害者対策のあらゆる事を先進地から真剣に学び、早急に我々被害者遺族に向き合って欲しいものです。ひとりひとりのニーズは皆異なります。まずは精神的な治療のマインドカウンセリング、そして病気の自覚症状の出ている病気の診察、治療、投薬、そして中には手術が必要な場合もあるでしょう。愛する家族を失い、自分もその後遺症から抜け出せなかったら、自滅するしかありません。まず我々遺族が社会に問題を投げかけて、活動の輪を広げることだと思います。活動するには健康でなければ絶対にできません。

私はずっとこの主張を繰り返してきました。我々の責任でないのにある日の不幸を境に、精神、身体、経済のいろいろなバランスを欠き、病魔につけこまれるのが犯罪被害者遺族たちの現状なのです。今まで通りの生活レベルに到達できるまで国、県、

そして周囲の人々が手を差し延べる義務があります。その人たちもいつ被害者遺族の立場にならないとは限らないからです。



先月9月26日(土)に、会員相互の連帯感や共通認識をもとうと言うことで安来の清水寺でなごみの会を開きました。この1年間をふり返り、たくさんの反省や要望事項が話し合われました。誰でもが自分の実体験に基づく話ですから、赤裸々で迫力のある内容になります。その中で、病気の早期発見のために、年1度の人間ドッグを無償で受けられるようにしたらどうかと希望を出しました。我々は、愛する家族を失った上に、今度は自分の健康や生命がダメになっていくのです。経済的、精神的にも背水の陣で生活していることを会員ひとりひとりが愚痴っているのではなく、それらを広く県民、国民の問題としてとらえ、改革なり、進歩なり、小さな一歩を踏み出して欲しいと思うからです。

なごみの会会員 徳田さよ子記



## 今後の活動予定



- 11月12日(木) 犯罪被害者支援フォーラムへの参加：13時から  
(とりぎん文化会館)  
講演者：ひょうご被害者支援センター 理事 高松由美子氏  
(自助グループ「六甲友の会」)  
パネルディスカッション：浜田妙子、米原美由紀  
交流会：フォーラム終了後、高松由美子さんとなごみの会のメンバーとの交流を計画  
したがって、10月のなごみの会は上記フォーラムへの参加とします。
- 11月29日(日) 「ゼロからの風」上演(倉吉未来中心)参加  
同時にパネル展示
- 12月6日(日) 「ゼロからの風」上演(米子文化ホール)参加  
終了後なごみの会開催予定